※次頁より後ろからご覧ください。

世界耐久選手権富士6時間レース記念イベント

WEC JAPAN

コスモロータリーターボ全速チャレンジ成績表

スタート順	ドライバー	VS タイム	ジャーナリスト	タイム
1	トム・ウォーキンショウ（マツダRX-7）	15秒60	武藤 久（毎日新聞社・スポーツ担当記者）	16秒52
2	関谷 正徳（マツダRX-7）	15秒36	ジャン・ロントー（ロントー社・オーナー）	15秒99
3	テリー・ブーセン（ロントー）	15秒96	端詰 英一（スポーツニッポン新聞社記者）	16秒82
4	高橋 国光（ベース・カー・トライバー）	16秒01	アンディ・マーシャル（アメリカ MOTORING NEWS 記者）	16秒88
5	アンリ・ペスカロロ（ロントー）	16秒17	小川 麒文（AUTO SPORT 編集長）	16秒35
6	従野 孝司（マツダRX-7）	15秒24	ボニー・ヘン（フェラーリ512BB）	16秒77

400mトライアル

参加者は全部で12人。WECレース出場のプロ・ドライバーと、モーター・ジャーナリストとがペアを組んでゼロヨンのタイムを競い、それぞれの中からベスト・タイムを出した人を表彰しようというものだ。その顔ぶれはごらんのとおり（成績表参照）。さらに、日本人と外国人とが対決するように組まれ、一点のボニー・ヘン嬢とジャン・ロンドーはジャーナリストグループに入った。

まず最初、六台の一般量産車、コスモロータリーターボGTでサーキットを二周して腕ならしをしたところでいよいよチャレンジである。直線コースの400メートルとはいえ、どのくらいエンジンの回転を上げてスタートするか、いかにムダなくシフトアップするかで、タイム差が開いてくる。ジャーナリストたちの緊張した表情。

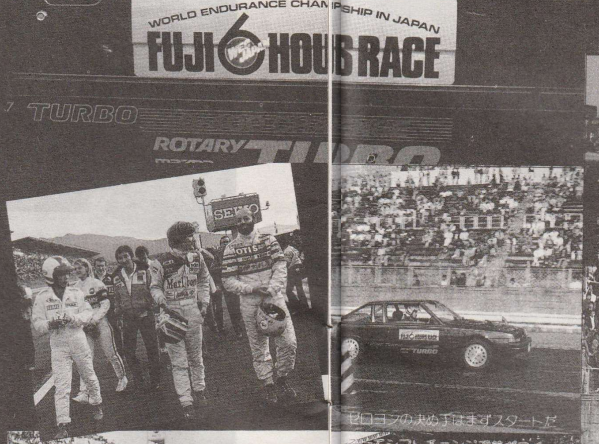
最初の組がスタートする。コスモロータリーターボの静かでパワフルなエンジン音。さすがプロだけあってトム・ウォーキンショウがパッと飛び出して15秒60。武藤氏も16秒52となかなか。二組目はプロ同士とあってかなりのテッド・ヒートが演じられたが関谷が15秒36の好タイム。三組目は端詰氏のスタートがよく、あわや、と思ったがやっぱりプロの勝ち。「飛び出してから5メートルくらいまでは横を見ると僕の方が出てたんだけど、セカンドからサードに入れるのに手間どって回転を落としてしまったよ」と端詰氏はくやしがる。

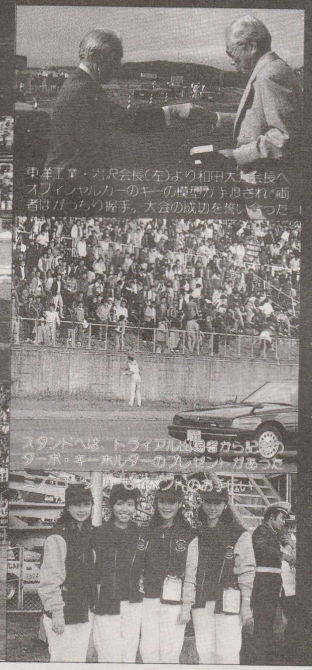
四組目はアンディ・マーシャルがどうもシフトチェンジでミスをしたらしく差が開いてしまった。いちばん接戦だったのは五組目で、その差はわずか0・18秒だった。結局、ドライバー・チームでは15秒24を出した従野孝司、ジャーナリスト・チームは16秒35というみごとなタイムを出した小川麒文氏が優勝した。

表彰式のあと、まだ興奮のさめやらぬ表情のメンバーたちにひとこと感想を聞いてみると

「優勝したからいい気分だよ。ロータリーターボはよく走る車だね。メイン・スタンド前は少し上りになっているけど、あれが下りなら15秒は切れただろうなあ」とごきげんな従野。「街中で走るにはかなりパワーのある車だね」と関谷。この大会でペースカーのドライバーを担当する高橋国光も「ロータリーターボというとかなり高度な運転技術を要するようなイメージがあるけど、この車なら初心者でも大丈夫だね」と太鼓判を押してくれた。

一方、外人チームの反応も好評だった。「とてもパワフルなクルマだ」とペスカロロ。ロータリーは初めてだというブーセンも「トルクが大きく、エンジンもパワフルそのもので、それでいて乗り心地がいい」とロータリョに惚れ込んだ様子。またロンドーは「踏めば踏むほどスムーズに上がっていくロータリーターボのフィーリングがいい。それに上の回転でモタつきがない。コントローラブルでコンファタブルなクルマだ」と、さすが目ちマシーンをつくる男だけあって観察が細かい。わがマツダチームのトム・ウォーキンショウは「切りかえがスムーズでなめらかに回転が上がって力強い車だね」とほめながらも「僕がいいタイムが出なかったのは、あまりにもいい車だから壊すともったいないと思ってアクセルを戻したからなんだ」と茶目っ気まじりの負け惜しみをひとこと。ともかく、本番前の緊張をほぐす楽しいイベントだった。





世界耐久6時間レース結果

順位 車番 ドライバー（チーム）〈周〉

1 ⑪ ポルシェ956 〈260周〉
（J・イクス、J・マス）
—6時間41秒05—
2 ⑭ ランチアG5-75 〈258周〉
（R・パトレーゼ、T・ファビ）
3 ⑨ マーチ75S 〈243周〉
（中村正和、見崎清志）
4 ⑧ BMW・M1 〈238周〉
（佐藤文康、長坂尚樹）
5 ⑦ セリカC 〈234周〉
（館信秀、星野薫、鈴木亜久里）
6 ⑭ マツダRX-7 〈234周〉
（従野孝司、関谷正徳、T・ウォーキンショウ）
7 ⑩ ポルシェ935 〈230周〉
（R・K・クーク、J・T・アダムス）
8 ⑭ マツダRX-7 〈224周〉
（白鳥哲次、鈴木政作、猪原理）
9 ⑰ マツダRX-7 〈224周〉
（戸谷千代三、鈴木恵一、飯田薫）
10 ⑭ BMW・MCS 〈219周〉
（柳田春人、内田審司）